

# 第10回ヒーローズカップ 関西大会 実施要綱

ヒーローズカップ近畿地区大会を開催するにあたり、試合形式、競技方法について、下記の通り定める。  
本書に記載の無い事項については、第10回ヒーローズカップ 開催要綱、同 実施規約、同 安全対策規程に基づくものとする。

## 1. 日程

平成30年2月4日（日）、11日（日） 両日とも 9:00～16:30

※雨天決行の予定ですが、中止の場合、午前6:00に各チーム責任者に連絡いたします。

## 2. 会場

ヤンマーフィールド長居（長居第2陸上競技場）

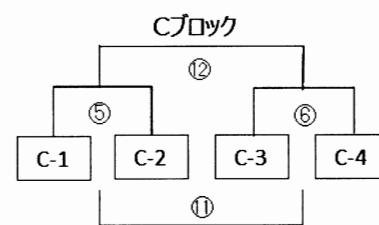
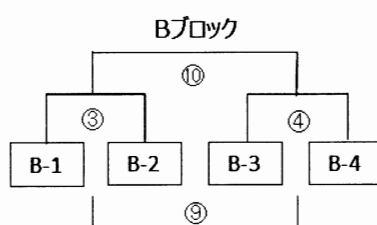
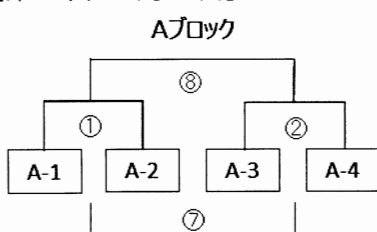
大阪市東住吉区长居公園1-1

## 3. 試合形式

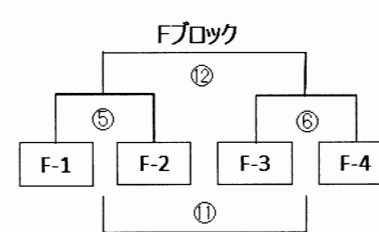
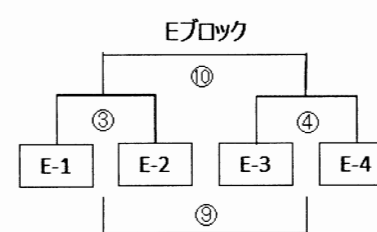
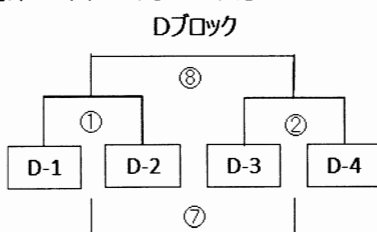
### (1) 組み合わせについて

参加チームを6ブロックに分け、トーナメント形式で対戦する。

【第1日 2月4日】



【第2日 2月11日】



### (2) 順位決定について

トーナメント戦で引き分けの場合は、抽選により上位の試合に進出するものとする。

## 4. 決勝大会への出場権について

各ブロックの1位チームに決勝大会への出場権利が与えられる。1位チームが止むを得ない理由で権利を放棄した場合には、2位チームに出場権利を付与する。

## 5. 競技方法について

前述の通り、第10回ヒーローズカップ 開催要綱、実施規約 に基づき実施する。

### (1) 規定のチーム構成人数未滿による試合

1 チームにつき規定の人数（9名）より少ないプレーヤーにより試合は、試合途中において怪我や病気により出場選手が8名まで許可される。但し、試合開始時点では、9名の健康な選手を揃えなければならない。人数の足りないチームが他のチームから選手を借りて試合を行う場合は、人数の足りないチームは不戦敗として、交流試合として試合を実施する。

### (2) ブリーフィングについて

開会式前に、代表者会議、キャプテン会議、レフリー会議の各ブリーフィングを実施する。それぞれ決められた時間に本部前に集合する。（雨天の場合は、1階通路またはロビーで行う：大会本部よりアナウンス有り）

### (3) ドレスチェックについて

開会式後記念写真を撮影したチームからドレスチェックを行う。 ※遅れてきた選手は本部にて必ず受けること。

※チェック項目

- ・スパイク：取り換え式ポイント及び金属がついていないスパイク
- ・ヘッドキャップの確認
- ・肩パットなどを着用していないこと
- ・爪（爪が長い選手は切ってから再チェックを受けること）
- ・服装

### (4) 服装

寒さ対策として、長袖アンダーウェア、スパッツを着用しての出場を認める。また、グローブ（指先のないもの）の着用は、可とする。但し、男子は膝の出ないスパッツは不可、女子は膝が出なくても可とする。

スパッツの色は、出来るだけパンツの色と同系色か、黒、白を着用のこと。

マウスガードは、出来るだけ着用することが望ましい。

### (5) ゴーグルの取り扱いについて

平成26年2月17日の「IRB 世界的試験実施ルールラグビー用ゴーグル使用」について（通達）により、世界的試験実施ルールで、IRB（現ワールドラグビー）が試験的に承認したラグビー用ゴーグルに限り、ゴーグルの着用が可能となっています。本大会においても、この世界的試験実施ルールに基づいて運用しますが、ワールドラグビーの承認、眼科医による証明が必要となりますのでご承知おきください。他のスポーツ用ゴーグルを着用しての出場は認めません。

### (6) ベンチの位置

ベンチの位置は、コイントスによって決定したキックオフ時の自陣側のベンチとする。

ベンチに入れるのは、登録された、試合責任者を含むコーチ（3名まで）、セーフティアシスタント1名、ウォーター係1名、チームカメラマン（2名まで）選手のみとする。

試合中は、ベンチからプレーヤーへの指示は、一切禁止とする、指示があったと判断した場合は、レフリーまたは大会役員が注意する。該当者は、それに従わなければならない。

### (7) セーフティアシスタント

セーフティアシスタントは、必ず有資格者が対応する。

チームに有資格者を用意できない場合は、大会本部に申請すること。（大会本部で手配）

セーフティアシスタントは、配布されたビブスを着用し、自陣左側タッチラインの外でアシスタントレフリーの邪魔にならない位置で待機すること。選手が負傷した際には、速やかにグラウンド内に入り、必要な対応をすること。

セーフティアシスタントは、選手に対してプレーの指示をしてはならない。

### (8) ウォーター係

ウォーター係は、ベンチの内側（ハーフウェイライン側）で待機する。

給水は、いずれかのチームが「トライした後」から「キックオフでプレーが再開されるまで」の間に速やかに行うこと。

ウォーター係は、一般の観戦者と区別をあきらかにするためにコーチと同様の服装をするか、ビブスを着用する。

ウォーター係りは、選手に対してプレーの指示をしてはならない。

### (9) コイントス～試合開始

試合開始時刻の10分前に本部席前でコイントスを実施する。両チームのキャプテンは遅滞なく集合すること。スケジュール表のスタート時刻＝キックオフの時刻とする。

キックオフの2分前には、中央エリアの自陣5mラインの位置に入場できるように待機すること。

### (10) 試合時間

各ブロックともに13分ハーフ（ハーフタイム3分）で実施する。

A面、B面ともに同時にキックオフを行うので、本部席より試合開始のアナウンス、ハーフタイム、試合終了の合図を行う。原則としてロスタイムによる試合時間延長は行なわない。

タイムキーパー制を採用し、大会本部で時間管理を行うが、事情によりレフリーとタイムキーパーとの間に大きな誤差が生じた場合は、レフリーの判断、責任で終了する。

### (11) ゴールキック

トライ後のゴールキックは、実施しない。

### (12) ボール

試合に使用するボール（4号球）は、大会本部にて用意する。

### (13) 選手交代について

選手の交代は、交代人数を制限しない。また、一度交代した選手の再出場を認める。

プレー中の選手交代は、1度の交代を3人までとし、それ以上の場合は、2回以上に分けて交代する。

選手交代時は、競技役員に交代する選手の背番号（ない場合は、名前）を申告し、レフリーの指示に従って交替すること。後半開始時の交代については、人数制限は設けない、また、競技役員への申告も不要とする。

負傷時の交代については、レフリーの指示により交代選手を入れる。この場合は、競技役員への申告は不要。

### (14) 一時退出（シンビン）について

シンビンでの一時退出は、3分間とし、競技役員が計時する。

### (15) 負傷時の対応について

プレー中、選手が負傷した場合、レフリーは試合を中断し、ドクターを呼び、負傷状況を確認する。

ドクターが試合続行を認めない場合は、レフリーは速やかに当該チームに選手交代を要請する。

その際、自チームのセーフティアシスタントからの助言（例、まだやれます・・・等）は禁止とし、決してドクターの判断に異を唱えてはならない。

## 6. アフターマッチファンクションの実施

本大会では、下記の要領を参考に試合毎にアフターマッチファンクションを実施する。

- ・試合終了後、グラウンドに整列し、レフリーの指示で互いに礼をする。
- ・両チームのベンチ前に整列して礼をする。
- ・給水し、持ち物の忘れ物がないかを確認後、ベンチを空けてアフターマッチファンクションのエリアに移動する。
- ・レフリーは、両チームの選手、コーチが揃ったことを確認して、声が聞こえる範囲に選手を集める（着座も可）以後、レフリー主導でアフターマッチファンクションを進める。
- ・レフリースピーチ：危険なプレー、好ましいプレー、ルールに対する助言などを簡潔に分かりやすく、親しみやすい言葉遣いと表情で選手に伝える。
- ・キャプテンスピーチ：両チームのキャプテンは、自己紹介の後、試合の感想を話す。レフリー、コーチは、名前の復唱や内容について必要に応じてフォローする。
- ・コーチスピーチ：両チームのサイドコーチは、自己紹介の後、試合の感想を話す。特に相手チームの良かったプレーに着目して、出来るだけ具体的に評価する。
- ・選手、コーチは、起立して互いに礼をし、最後の選手同士が握手する。（全員ができるように配慮する）

## 7. レフリーについて

レフリー、アシスタントレフリーは、大会本部で各協会公認レフリーを手配する。

第3ARは、競技役員が担当する。

## 8. 試合記録について

レフリー用のスコアカードは、大会本部により用意した所定のものを使用し、トライ数を記録する。

記録員は、公式記録票にトライ数、得点、反則数を記録する。

試合終了直後、記録員は、レフリー及び両チームの担当コーチに点数を確認する。

レフリーはスコアカードに必要事項を記入、署名した後、アフターマッチファンクション終了後、本部席の記録役員に渡し、記録役員が公式記録票に貼付する。

## 9. ベンチ、観戦のマナーについて

本大会では、試合中において、コーチ、保護者、観戦者からプレー中の選手への指示は、一切禁止とする。

各チームの試合責任者は、チーム内関係者に周知すること。

保護者、観戦者は、グラウンド内に入らずメインスタンドの観戦区域で応援する。

チーム毎に2名まで、グラウンドサイドでの撮影を許可する。撮影許可腕章を配布するので着用すること。

観戦エリア、撮影エリアは、会場案内図に記載する。

グラウンドサイド（アンツーカー内）は、運動靴を着用すること。

スパイク着用時は、アンツーカー内には立ち入らない、人工芝の通路を通ること。

## 10. ウォーミングアップエリアの利用について

芝生ピッチ内での練習は禁止する。

ベンチ裏のウォーミングアップエリアは、次の試合のチームを優先とする。

ウォーミングアップエリアでは、必ず、運動靴（アップシューズ）を着用すること。

## 11. 救急車の要請について

試合中の負傷により、救急車を要請する場合は、マッチドクターから大会役員を通じて要請するので、チーム関係者は、直接要請しない。

試合中以外で救急車要請する場合、必ず、大会本部を通じて要請すること。

## 12. その他注意事項

貴重品の管理は各チームの責任でお願いします。

グラウンド内には水以外は持ち込まないようにお願いします。

グラウンド内は飲食禁止。（お菓子・ガム・アメ含む）

スタジアム内は全面禁煙（電子タバコ、加熱タバコを含む）

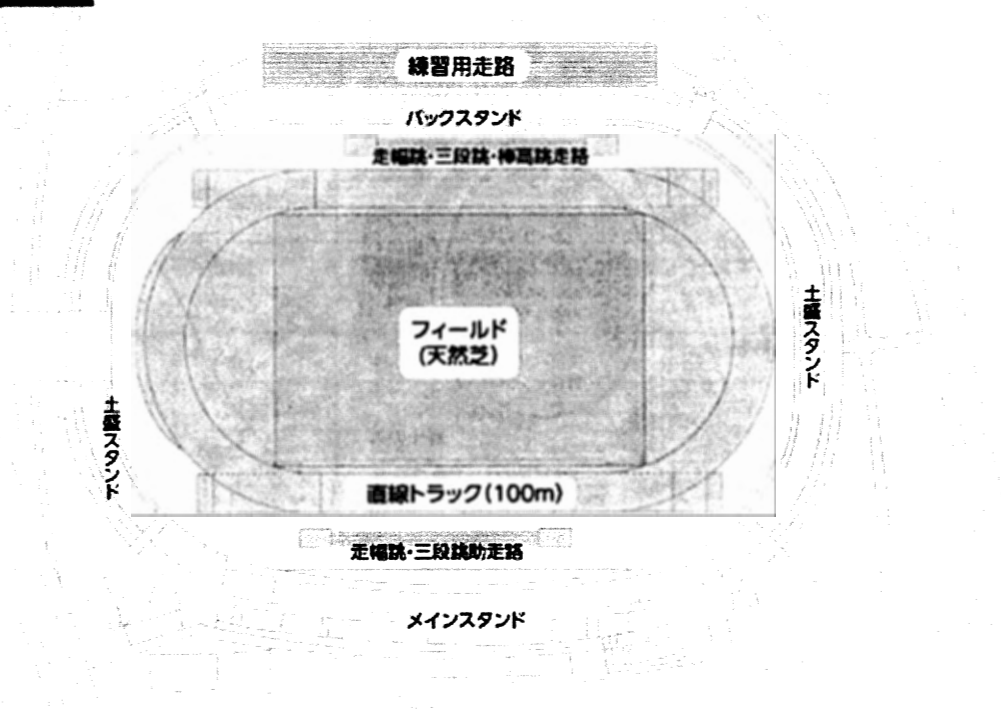
ゴミ等はチームで責任をもって持ち帰ってください。

荷物置場の片付け、ゴミのチェックをした後、ID、ビブス、腕章とともにチーム名プレートを返却する。



## 関西大会会場（ヤンマーフィールド長居）使用の注意とご案内

### ヤンマーフィールド平面図



### 1. 出入口と駐車場

- ・選手、コーチは、メインスタンド2階ゲートより入り、各チームのエリア（後日場所案内）に荷物をおいてください。
- ・応援は、メインスタンドからお願いします。
- ・自家用車は長居公園の各駐車場をご利用ください。
- ・大型バスは、中央駐車場になります。（事前申請必要）

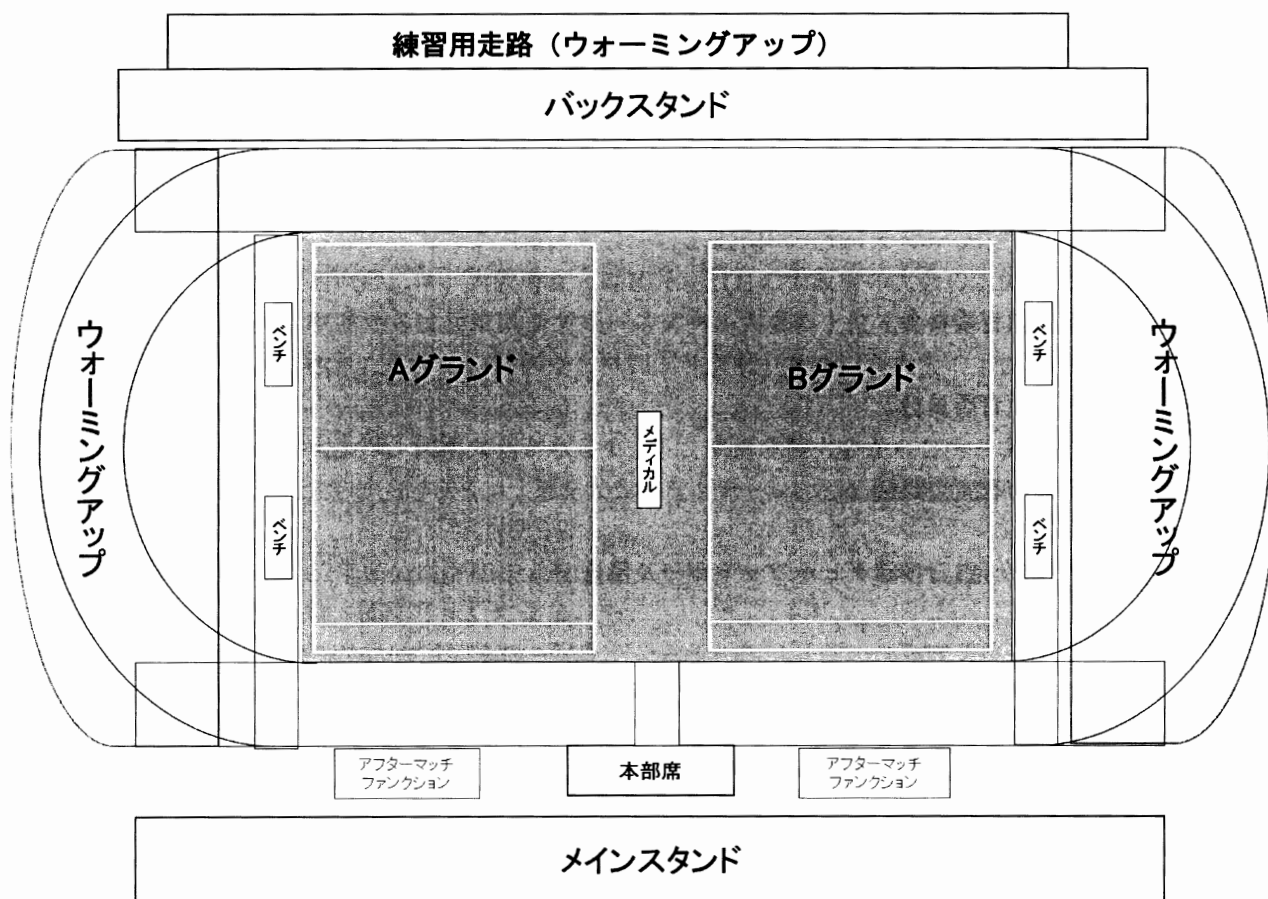
### 2. グランドの使用について

- ・グラウンド内へは、選手、コーチ、セーフティアシスタント、チームカメラマン（2名迄）のみが入場できます。
- ・観戦場所は、メインスタンドでお願いします。
- ・ウォーミングアップは、芝フィールドの外側のアンツーカー部分、練習用トラックでお願いします。
- ・芝フィールドの外側は、次の試合のチームのみ利用可とします。他のチームは練習用走路でお願いします。
- ・グラウンド内は、飲食禁止です。ただし、水分補給のためのものは除きます。
- ・グラウンドエリアには、水以外の持ち込みは禁止します。（スポーツドリンクも禁止です）
- ・芝フィールド内は、スパイク着用です。
- ・アンツーカー部分、練習用走路は運動靴（アップシューズ）着用です。（履き替えてください）

### 3. グラウンド外の使用について

- ・各チームの荷物置き場は、メインスタンド内に、チーム名を表示しますので、そちらを利用してください。
- ・雨天の場合は、メインスタンドコンコースに荷物置き場を設定します。
- ・トイレは、メインスタンド1階（南北各1か所）を利用してください。
- ・スタジアム内は全面禁煙です。加熱たばこ、電子たばこ、についても禁止します。
- ・ゴミは、責任を持って必ず全て持ち帰りください。
- ・各チームの荷物置き場を清掃した後、チームプレート、IDを本部まで返却してください。

# 第10回ヒーローズカップ 関西大会 グラウンドレイアウト



## 注意事項

1. アンツーカー部分にスパイクで入らないでください。ピッチへは人工芝を通ってください。
2. ウォーミングアップエリアは、アンツーカーですので運動靴（アップシューズ）に履き替えてください。
3. 芝フィールド内は、スパイク着用してください。
4. スタジアムは全面禁煙です。（電子たばこ、加熱たばこ（アイコス等）も同様です。）
5. チーム別荷物置場は、メインスタンドにチーム名を表示しています。
6. 応援は、メインスタンドをお願いします。
7. バックスタンドは、開放していません。
8. グラウンド内には、選手、コーチ、ウォーター係、セーフティ・アシスタント、チームカメラマンのみ入れます。
9. 腕章を着用したチームカメラマンは、ベンチ、アンツーカー部分にも立ち入りを許可します。
10. ウォーミングアップエリアの使用は、次の試合のチームを優先します。
11. 雨天時は、メインスタンド1階のエントランスを利用しますが、その場合、大会役員の指示に従ってください。

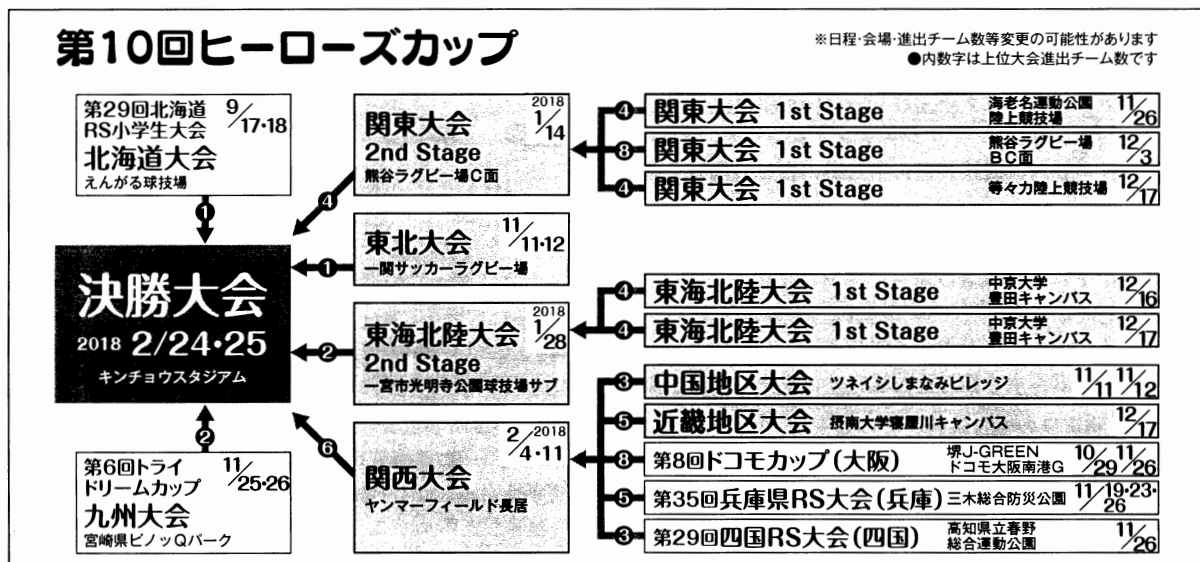
## 第10回 ヒーローズカップ 開催要綱

1. 主 催 NPO法人ヒーローズ
2. 主 管 ヒーローズカップ実行委員会
3. 後 援 スポーツ庁  
関西ラグビーフットボール協会  
大阪府ラグビーフットボール協会  
大阪府  
大阪府教育委員会  
大阪市  
大阪市教育委員会  
東大阪市  
東大阪市教育委員会
4. 運営アドバイス (公財)日本ラグビーフットボール協会
5. 目 的 ラグビー普及育成の一助として、ミニ・ラグビーの全国規模の交流試合を行い、ラグビーの試合を通じて健全な精神と身体を養うことを目的とします。参加する全ての子どもたちに、夢と希望と感動を与えられる大会を目指しています。
6. 日程/会場

東北大会	2017年11月11日・12日	一関サッカー・ラグビー場
中国地区大会	2017年11月11日・12日	ツネイシしまなみビレッジ
関東大会 (1st Stage)	2017年11月26日	海老名運動公園陸上競技場
	2017年12月3日	熊谷スポーツ文化公園ラグビー場B・C
	2017年12月17日	等々力陸上競技場
関東大会 (2nd Stage)	2018年1月14日	熊谷スポーツ文化公園ラグビー場B
東海北陸大会 (1st Stage)	2017年12月16日	中京大学豊田キャンパスラグビー場
	2017年12月17日	中京大学豊田キャンパスラグビー場
東海北陸大会 (2nd Stage)	2018年1月28日	一宮市光明寺公園球技場サブグラウンド
近畿地区大会	2017年12月17日	摂南大学寝屋川キャンパスグラウンド
関西大会	2018年2月4日	ヤンマーフィールド長居
	2018年2月11日	ヤンマーフィールド長居
決勝大会	2018年2月24日・25日	キンチョウスタジアム
7. 大会組織 (1) 本大会の開催に際しては、大会実行委員会を組織する。  
(2) 大会実行委員会には、各委員長、副委員長、委員を任命する。  
(3) これらの組織をもって、円滑な大会運営を図ることとする。
8. 参加資格 (1) 公益財団法人日本ラグビーフットボール協会に平成29年度のチーム登録が完了した各都道府県ラグビーフットボール協会所属のラグビースクールにおいて「プレーヤー」として平成29年度の個人登録が完了した小学校6年生および5年生。  
(2) 保護者が大会への参加を承諾した選手であること。また、大会参加にあたっては指導員等の引率者を必要とする。  
(3) 出場チームから公益財団法人スポーツ安全協会の「平成29年度スポーツ安全保険」への加入が完了した者。



9. 参加チーム (1) 1スクール1チームとする。  
 (2) 合同チームのエントリーを可能とする。  
 (3) 東北大会は東北地方のチーム。  
 関東大会は関東地方および近隣のチーム。  
 近畿地区大会は、大阪・兵庫を除く近畿地区のチーム。  
 東海北陸大会は、東海北陸地方のチーム。  
 中国地区大会は中国地方のチーム。  
 関西大会は、大阪推薦8チーム・兵庫推薦5チーム・四国推薦3チーム・近畿地区大会から5チーム・中国地区大会から3チームの計24チームで行う。  
 ※関西大会には、大阪府からは10月・11月の大阪府の大会の上位8チーム。  
 兵庫県からは兵庫県ラグビースクール大会の上位4チームと準々決勝で優勝チームに敗れたチーム。四国からは四国ラグビースクール大会の上位3チームを推薦する。
- 決勝大会は、関西大会から6チーム、東海北陸大会から2チーム、九州推薦2チーム、関東大会から4チーム、東北大会から1チーム、北海道推薦1チームの計16チームで行う。
10. 競技方法 (1) 平成27年度公益財団法人日本ラグビーフットボール協会制定の『ミニ・ラグビーの競技規則・高学年用』による。  
 (2) 組み合わせは各大会毎に抽選にて決定する。  
 (3) 試合時間は、各大会毎に異なるが、1日2～3ゲームを行い、1日の総ゲーム時間は60分を越えないものとする。  
 (4) 平成29年2月1日に公益財団法人日本ラグビーフットボール協会から通達されたWR世界的試験実施ルール（北半球2017年7月1日施行）、および同じく平成29年7月22日に通達されたWR試験的ルール（北半球2017年8月1日施行）を適用して実施する。
11. 参加費 参加チームから大会運営費の一部として、大会参加登録費10,000円を徴収する。
12. スポーツ庁長官賞 決勝大会優勝チームへスポーツ庁より『スポーツ庁長官賞』を付与する。
13. その他 各大会毎にマッチドクターを配置する。負傷に対して応急処置は行うが、大会主催者が以降の責任は負わない。マッチドクターに競技続行不可能と判断された場合、当該選手は当日の試合には出場することができない。  
 選手の健康管理には十分注意すること。選手は健康保険証を持参すること。



# 第10回 ヒーローズカップ 実施規約

## 各大会への出場について

### 1. 出場チームの構成について

各大会（地区大会、決勝大会）出場に必要な選手以外のスタッフについては下記の通りとする。

(1) 大会に出場するチームのベンチ入りできるスタッフの構成は、以下の通りとする。

- ① 試合責任者（必須） 1名 〈試合出場チームの責任者〉
- ② セーフティアシスタント（必須） 1名 〈セーフティアシスタント（SA）資格保有者〉
- ③ 監督・コーチ（任意） 任意 〈グラウンド（ベンチ）へ入る最大人数は各大会で規定する〉

(2) 大会運営の為に出場するチームは、下記の運営スタッフを選出するものとする。

- ① レフリー（随時） 1名 〈C級以上（大会によっては、運営側で手配する）〉
  - ② アシスタントレフリー（随時） 1名 〈C級以上（大会によっては、運営側で手配する）〉
  - ③ 競技補助役員（随時） 任意 〈競技役員の補助業務（第3AR、記録、ボールボーイ等）〉
- 尚、①②のレフリー資格保持者がいない場合は、出場申込み時にその旨を大会本部に伝えること。

## 競技に関する諸注意事項

### 2. 選手登録の方法

- (1) 各大会への出場選手登録は、「第10回ヒーローズカップ開催要綱」の「7. 参加資格」の(1)、(2)、(3)の要件を満たす者の中から人数制限なく登録できる。
- (2) ヒーローズカップへの出場推薦チームを選考する大会を含む各大会において、チームの移籍をして第10回大会の次の大会へ出場することは認めない。選手は、ヒーローズカップへの出場推薦チームを選考する大会を含むどれかの大会で、最初に出場登録をしたチームで最後まで出場登録することとする。
- (3) 上記選手登録に疑義が生じた場合、大会実行委員会にて出場を取り消す場合がある。違反して選手登録又は出場をした場合、次回から当該チームの参加を認めないことがある。

### 3. 選手の交替・入替え

- (1) 選手の交替・入替えの際には、監督・コーチ又は選手自身が当該試合担当の競技委員に申し出、競技委員ならびにレフリーの指示に従って交替・入替えを行なう。
- (2) 一度の交替・入替えは3名までとする。
- (3) いったん交替により退いた選手の再出場も認める。

### 4. シンビン・退場（競技規則第10条等参照）

- (1) シンビン（一時的退出）となったプレーヤーは、ハーフウェイライン付近の所定の場所に待機しなければならない。レフリーが許可するまで、フィールド・オブ・プレイに入ってはならない。
- (2) シンビンの時間は3分間とし、ハーフタイムの時間は含まれない。
- (3) 同一試合で2回目のシンビンを受けた選手は、そのまま退場となりゲームに再出場することはできない。また、各大会共通で次の1試合は自動的に出場停止となる。
- (4) シンビンの累積による退場以外の事由（不行跡等）で退場となった選手は、各大会競技委員会で処分を決定する。なお、各大会共通で次の1試合は出場停止となる。

### 5. 試合前受付

- (1) 試合当日、各大会競技委員が指定する時間に試合責任者は代表者会議に出席し、出場選手およびスタッフに関して、事前登録通りであるかを報告すること。
- (2) 各大会実行委員会より当日必要な伝達を行うので、代理の者でなく必ず試合責任者本人が出席すること。
- (3) 代表者会議終了後、各大会のスケジュールにより、ドレスチェック・装身具のチェックをレフリー又は競技委員が行う。このドレスチェックを受けていない選手は試合に出場できない。
- (4) チームからレフリー、アシスタントレフリー、競技補助役員を選出した場合、必ず大会当日のブリーフィングに参加し、レフリー委員、競技委員に申し出、当日の割当を確認すること。

### 6. 競技時・ハーフタイム時の諸注意

- (1) 競技委員は、グラウンドの適切な位置に両チームのベンチエリアを設け、各チームにベンチの位置の指示をする。
- (2) 試合中チーム関係者は所定の場所に位置し、うろろしないこと。ゲームの進行とともに移動して応援したり、指示をしないこと。
- (3) ベンチ内であってもチーム関係者は、プレーヤーに対する指示は控え、適切な応援を心がけること。
- (4) グラウンドへ水を持ち込む場合には安全な容器を用いること。（ビン等は不可）

### 7. 安全対策、脳震盪の報告義務、その他

- (1) 試合参加にあたっては、あらかじめ健康診断を受ける等、プレーヤーの健康管理に充分配慮すること。
- (2) 脳震盪を起こした疑いのある、あるいは脳震盪と診断された選手は退場させる。試合中に脳震盪で退場したプレーヤーが出た場合には、チーム責任者は所定の用紙によって報告の義務がある。
- (3) 脳震盪を起こした疑いのある、または、脳震盪と診断された選手は、必ず“IRB脳震盪ガイドライン”にある「段階

## 第10回 ヒーローズカップ 安全対策規程

ヒーローズカップでは、安全を最優先とします。積極的に安全対策を行うことによって、危険の予知と予防、万が一の事故の際に適切な処置を出来る様にするため、各大会に関する安全対策規程を下記の通り定めることとします。

### 1. 安全対策に必要な人員

(1) 安全に試合を進行し、負傷や事故にすぐに対応できるように、下記の通りの安全スタッフを配置すること。

#### ① マッチドクター

競技場の隣接する2グラウンドに対して、1名以上配置する。

協会登録の医務委員またはセーフティアシスタント (SA) 資格保有者が望ましい。

実行委員会によりマッチドクターの補助として、柔道整復師、トレーナーなどの資格者を配置することがある。

#### ② セーフティアシスタント (SA)

各試合各チームから1名、セーフティアシスタント (SA) 資格保有者を選出する。

#### ④ 競技委員

各試合に1名以上。安全なゲーム進行を見守る。

### 2. 試合環境の整備

(1) 水源の確認 (水道水および飲料水のチェック)。

(2) 氷の準備。

(3) 救急バッグの準備。

マッチドクターと事前に確認を取り、運営側で準備をする。

〈内容物の目安〉テーピング用テープ、三角巾 (4枚以上)、はさみ (2本以上)、体温計 (2本以上)、綿花、単ガーゼ、

消毒セット (ディスポ10本以上)、絆創膏、包帯、バンドエイド、コールドスプレー、ネット、弾力包帯 etc.

(4) ドクター待機場所の準備

医務室のない会場では、医務テントの設置が望ましい。

救急バッグ・水・氷・AED (リースも可) を設置。

(5) 救急受け入れ医療機関の事前確認

当日、大会が行われることを付近の医療機関に事前連絡をして、救急受け入れ先を確認しておく。

(6) グラウンドの準備

複数グラウンドで同時に行う時は、競技区域の間隔を充分空ける。(タッチラインの共有はしない)

必ず試合前に、グラウンドおよび周辺を競技委員その他スタッフでチェックする。

### 3. 参加チームの安全対策について

(1) 各チームに安全対策委員 (安全推進講習会受講者または、セーフティアシスタント (SA) 資格保有者または、試合責任者) を選出し、チームの安全対策を実施すること。

(2) セルフチェックシートの利用や、健康診断の実施等、選手の体調管理を普段から行い、試合当日は保護者から選手の健康状態をヒヤリングして、選手の健康状態を十分に把握しておくこと。

(3) 体調に異常所見が認められる選手、体調不良の選手を出場させない。

(4) 安全第一で正しい指導を心がけること。危険なプレーにつながる言動を行わないこと。

(5) ラグビーに適した服装で試合に参加し、爪のチェックを行う。

(6) 試合後および試合の合間は、防寒具等を着用し体を冷やさないようにする。

(7) ウォームアップ・クールダウンを充分に行わせ、障害の予防をする。

(8) 安全プレーを推進し、タックルの基本姿勢、ラック・モールの姿勢を、十分に指導しておく。

### 4. レフリー

(1) 安全なレフリングを最重要とし、危険な反則に対しては特に厳しく対処する。

(2) 積極的にプリベントコールを行い、反則と危険を未然に防ぐ。

(3) コンタクトプレーにおいてバインドをするように指導する。ノーバインドによるコンタクトに対しては、事前に声をかけて予防し、もし発生したら単に反則を取るだけでなく、事後によく注意する。

(4) 体調不良、怪我等で継続不可と判断する選手には、プレーを続行させない。

- ⑤ SHがキャッチせずにワンバウンドになった場合 → SHが触れた時点で解消
- ⑥ ワンバウンドのボールをラインアウトプレーヤーが触れたとき → その時点で解消
- ⑦ タップしたボールがラインオブタッチから5mを越えたとき → その時点で解消
- ⑧ SHとラインアウトプレーヤーがポジションチェンジするのは可能。  
ただし、スロワーがボールを投げ入れ、ラインアウトが開始されるときには、二人並んでいること。

## 5. ペナルティキック

キック時に特に注意して、正しいペナルティキックを遂行する。

- ① ボールを地面に置かないで蹴る → やり直し
- ② キックは明確に → いずれかの方向に蹴り進めること
- ③ 勢いよく走り込んでボールをもらうプレー → PKだがキックしてからスタートするように注意
- ④ ノット5mの2度目は、間をおいてポイントを示し5mを取らせてからプレーさせる

## 6. キック

一般のプレー中のキックに対し、正しい判定を行う。

- ① 地上にあるイーブンボールを意図なく蹴る行為（いわゆる「フライキック」第10条10.4 (h)） → ペナルティ
- ② ダイレクトタッチ → 10mラインの外側から蹴った場合は、蹴った地点でスクラム。（第13条13.18）
- ③ テイクインバックの適用 → あり（シニアと同じルール）蹴った地点でスクラム。
- ④ ハーフタイムやフルタイムで外へ蹴り出す → OK

## <ゲームマネジメント>

### ●ブリーフィング：キャプテン会議で、全チームまとめて行う。

- ・ゲームで気を付けて欲しいことを簡潔に伝える。
- ・安全第一、フェアプレー（正しくプレーする）、リスペクト（相手チーム）、ノーサイドの精神。
- ・グラウンド（ゴールライン、デッドボールライン等のマーカー）の確認
- ・キャプテンから、チームメンバーに伝えることを願う。

### ●ドレスチェック：大会スケジュールの中で全チーム順番に行う。

- ・爪チェック。
- ・スパイク（非金属の固定式およびブレードのみ）チェック。取り換え、アルミ、金属は、禁止。
- ・ショルダーパット禁止。
- ・IRB公認のゴーグルの場合は着用を認める。

### ●試合の進行

- ・レフリーと両チームが、一緒にピッチに入場し挨拶する。
- ・試合時間はタイムキーパー制。
- ・キックオフ前半・後半の開始は、本部からのキックオフの合図後。
- ・ノーサイドは本部からの合図の後、デッドになった時点。ロスタイムなし。
- ・トライ後のコンバージョンキックは決勝大会以外なし。
- ・両チームのジャージが似ている場合は、競技委員とレフリーがチームと相談のうえ対応を決定。
- ・ノーサイド後は、整列挨拶し、グラウンドから速やかに出る。
- ・選手交代は、第3AR・競技委員を通して行う。
- ・スコアカードは、本部からの大会用のものを使い、必ずスコアチェックを行うこと。
- ・プレーヤーに積極的に声かけを行ない、良いプレーを引き出す。
- ・可能なら、ARからREFにコメント（良かった点・悪かった点）を共有し、次につなげる。

### ●アフターマッチファンクションの実施

- ・レフリーからの講評
- ・キャプテンによる相手に対する感想、担当コーチからの講評
- ・握手

# 第10回ヒーローズカップに関する 個人情報及び肖像権に関わる取扱いについて

NPO法人ヒーローズ

特定非営利法人ヒーローズは、(以下「NPO法人ヒーローズ」という。)は、大会参加申込書等を通じて取得する個人情報及び肖像権の取扱いに関して以下の通り対応します。

## 1 参加申込書に記載された個人情報の取扱い

- (1)大会プログラムに掲載することがあります。
- (2)競技会場内でアナウンス等により紹介されることがあります。
- (3)競技会場内外の掲示板等に掲載されることがあります。
- (4)組合せ等の内容が大会関連ホームページに掲載されることがあります。
- (5)氏名・学校名・学年については、報道の正確性を期すため、大会開催前に報道機関に提供することがあります。
- (6)大会スポンサーに対して、提供することがあります。

## 2 競技結果(記録)等の取扱い

- (1)NPO法人ヒーローズ、又はこれらに認められた報道機関、大会スポンサー等により、新聞・雑誌及び関連ホームページ等で公開されることがあります。
- (2)大会プログラム掲載の個人情報とともに、ヒーローズが作成する大会報告書(以下「報告書」という。)に掲載されることがあります。
- (3)記録、優勝及び上位入賞結果(記録)等は、次年度以降の大会プログラムに掲載されることがあります。

## 3 肖像権に関する取扱い

- (1)NPO法人ヒーローズに認められた報道機関や大会スポンサー等によって撮影された写真が、新聞・雑誌・報告書及び関連ホームページや、TVCM等で公開されることがあります。
- (2)NPO法人ヒーローズに認められた報道機関や大会スポンサー等によって撮影された映像が、中継・録画放映及びインターネットにより配信されることがあります。また、DVD等に編集され、配布されることがあります。
- (3)この他、NPO法人ヒーローズに許可を受けた写真撮影企業等によって撮影された写真等が販売されることがあります。

## 4 NPO法人ヒーローズの対応

- (1)取得した個人情報を前記利用目的以外に使用することはありません。
- (2)**参加申込書の提出により、前記取扱いに関する御承諾をいただいたもの**として対応させていただきます。
- (3)大会役員、競技役員、運営委員、その他各種委員や補助員、ヒーローズカップに関する契約をしている者、大会運営関係者及び会場に来られた観客の皆様につきましては、前記取扱いに関する御承諾をいただいたものとして対応させていただきます。

平成 29 年 8 月 8 日

関係各位

（ 第 10 回ヒーローズカップ 出場予定チーム代表者  
第 10 回ヒーローズカップ 出場検討チーム代表者  
第 10 回ヒーローズカップ 大会運営委員 ）

第 10 回ヒーローズカップ  
競技委員長 矢木真也

ヒーローズカップにおけるワールドラグビー試験実施ルールの適用について

拝啓 残暑の候、益々のご健勝お慶び申し上げます。

平素は、ヒーローズカップへの多大なるご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、ご承知の通り、平成 29 年 2 月 1 日付、平成 29 年 7 月 22 日付で日本ラグビーフットボール協会よりワールドラグビー試験実施ルールの施行についての通達がございました。

平成 29 年 2 月 1 日付けの通達は同年 7 月 1 日より、また、平成 29 年 7 月 22 日付の通達については同年 8 月 1 日より実施となっております。

ヒーローズカップ実行委員会では、日本ラグビーフットボール協会からの通達をもとに試験実施ルールのミニラグビーへの適用についての時期を確認しておりましたが、この度、日本ラグビーフットボール協会の関係部門に確認がとれましたので、第 10 回ヒーローズカップにおきましては地区大会も含め、この度の通達のワールドラグビー試験実施ルールを適用し実施することと致します。

つきましては、関係各位におかれましては、出場チーム内でのルール確認・指導、大会運営におけるレフリング対応など、適切にご対応いただきたくお願い申し上げます。

また、試験実施ルールにはミニラグビーに関連しない内容も含まれておりますので、各位におかれまして、再度、通達内容をご確認いただければ幸いです。

今後とも、ヒーローズカップへのご支援のほど、重ねてお願い申し上げます。

敬具

追記)

第 10 回ヒーローズカップにおける試験実施ルールの適用について、ご質問がある方は、下記の URL よりお問合せください。

※ヒーローズカップ案内サイト <http://heroes-cup.com/contact/>

✕

プレイの種類	競技規則該当項目	試験的ルール内容	根拠または具体的な解説	ヒーローズカップでの対応について
プレーヤーの人数	第3条 プレーヤーの人数—チーム3.6(アンコンテストスクラム)に条文を追加	(h) 退場、一時的退出、または、負傷によるアンコンテストスクラムは、両チーム8名ずつで行われなければならない。	チームがアンコンテストスクラムを利用しないようにするため。	適用外
試合時間	第5条 時間 5.7(e)に条文を追加	時間が経過した後、ペナルティキックを直接蹴り出した場合、レフリーはボールの投入(スローイン)を認め、次にボールがデッドになるまでプレーは続行する。	チームが試合終了間際に反則をしないようにするため。	適用外 ミニラグビー規則では、タックキックによる再開のため
アドバンテージ	第8条 アドバンテージ 8.1(a)に条文を追加	同じチームによる複数の反則が生じた場合、レフリーは、反則をしなかった側のキャプテンに最も有利なペナルティの地点を選ばせることができる。	すでにアドバンテージが適用されている状況で違反が繰り返されないようし、反則を繰り返した側ではないチームに報いるため。	試験的ルールを適用する。 ARは、最初のペナルティ地点を確認し、レフリーに伝える。
得点方法	第9条 得点方法 9.A.1 (得点の種類)	ペナルティトライ: 相手側の不正なプレーがなかったならば、ほぼ間違いなくトライが得られたものと認められた場合は、ペナルティトライが与えられる。コンバージョンは行わない。得点: 7点	チームが競技規則に反してトライを妨ぐことがないようにし、かつ、コンバージョンをなくして時計の時間を節約するため。	試験的ルールを適用するが、ゴールキックを採用しないゲームでは「5点」、ゴールキックを採用するゲームでは「7点」とする。
タッチ及びラインアウト	第19条 タッチおよびラインアウト 117ページの定義に、以下を追加:	ボールを支配しようとしているプレーヤーは、ボールを保持しているとみなされる。	これは、実際にはすでに適用されていることを競技規則で条文化したものである。ボールを「ファンブルしている」時、または、している状態は、ボールを保持していることになり、再びキャッチすると同時にタッチに出ればタッチであるとみなされる、ということの意味する。この条文追加により、マッチオフィシャルが判断をしやすくなる。	試験的ルールを適用する。
タッチ及びラインアウト	同上 117ページの8つ目の定義を変更	プレーヤーが競技区域から跳び上がり、タッチ、または、タッチインゴールに着地する前に、ボールを競技区域へ跳ね返した(または、そのプレーヤーがボールを捕り競技区域へ投げ戻した)場合は、ボールがタッチ上の立平面に到達してもしなくても、プレーは続行する。	競技規則を簡略化し、ボールがプレーされている時間を増やすため。	試験的ルールを適用する。 ARは、該当プレーヤーのジャンプ開始位置、着地位置を確認の上、判定する。
タッチ及びラインアウト	同上 117ページの定義に追加	ボールキャリアがタッチ上の立平面に到達したが先にタッチに出ることなく競技区域にボールを戻した場合、プレーは続行する。	ボールキャリアがタッチに出そうな場合に、足、体が競技区域外に触れる前にボールを戻した場合タッチではない。 競技規則を簡略化し、ボールがプレーされている時間を増やすため。	試験的ルールを適用する。 ARは、ボールキャリアがボールを離れたポイント、着地位置を確認の上、判定する。
タッチ及びラインアウト	同上 117ページの6つ目の定義に追加	このとき、ボールがキャッチされたときにタッチ上の立平面を通り過ぎていない場合、ボールをキャッチしたプレーヤーはボールをタッチに出したとはみなされない。ボールがキャッチされた、または、拾い上げられたときにタッチ上の立平面を通り過ぎていない場合、ボールが動いていても止まっても、ボールをキャッチしたプレーヤーはボールをタッチに出したとみなされる。 レフリーからの台詞は無い	タッチラインを跨いだり、タッチラインを踏んだ状態で、タッチラインを超えていない(立平面も含む)ボールをキャッチしたり、拾い上げればその行為をした選手がタッチに出したと判断。 競技規則を簡略化し、ボールがプレーされている時間を増やすため。	試験的試験的ルールを適用する。 ARは、ボールの軌跡が立平面を超えているか、ボールをキャッチしたプレーヤーの足の位置を確認の上、判定する。
スクラム	第5条 スクラムへのボールの投入、および、20.6 (d) スクラムハーフによるボール投入	スクラムハーフは、まっすぐにボールを投入しなければならないが、スクラム中央の線に、自分の肩を合わせてよい、すなわち、スクラムハーフは、スクラム中央の線から自分の肩の分、自陣より立つことが許される。	ボール投入の合図なし ハーフの立ち位置	試験的ルールを適用するが、合図については、スクラムハーフがボール投入合図を待っているような場合は、レフリーは、ボールインを促す声かけをする。
スクラム	第9条(b) スクラムにおける、その他の制限	ナンバーエイトは、セカンドローの足の下にあるボールを拾ってよい。	No8は、LOの足下にあるボールを拾ってもOK	適用外
スクラム	第20条 スローイン後に足でボールに触れること	ボールがトンネル内の地面に触れた後は、双方のフロントローはボールを獲得するために、いずれの足も使ってもよい。ボールを投入するチームの一人は、ボールを取り足で掻かなければならない。 罰則: フリーキック	マイボールスクラムのチームは、足をかきボールをとりこく。押すだけではダメ	適用外 原則としてボール投入側が獲得する。投入側が誤って相手側に蹴った場合は、そのままゲームは続行される。
タックル	第4条(c) 修正	タックラーは、ボールをプレーする前に、一度立ち上がりなければならない。また、タックルゲートの自陣側からプレーしなければならない。	タックル後は、立ち、自分のゲートからプレーする。	試験的ルールを適用する。 レフリーは、タックラーに声かけし、オフサイドないように指導する。
ブレイクダウン	第16条「ラック」ブレイクダウン修正	ラックは、少なくとも一人のプレーヤーが、両足で地面にある(または、タックルされたプレーヤーの上、タックラーの上にある)ボールをまたがって立つことで開始される。この時点で、オフサイドラインが形成される。両足で立ったプレーヤーは、すぐに行方限り、ボールを拾うことが許される。敵のプレーヤーが到着した瞬間、手の使用はできなくなる。	タックル後、「すぐ」手を使うことはOK。だけど、相手選手が到着したら、「手」は使えない。	試験的ルールを適用する。 レフリーは、ラック成立のコール、ノーハンド(手をつかっちゃダメ)の声かけでオフサイド、ハンドをしないように指導する。
ラック	第4条 その他の反則	プレーヤーはラックの中のボールを蹴り出してはならない。プレーヤーはボールを自陣に向けて後ろ向きにかくことのみ許される。	ラックのボールは蹴ってはいけない。後ろにかくだけ。	試験的ルールを適用する。 レフリーは、ラック成立のコールをする。